

イギリスでは、児童の情緒的・身体的健康を促進するために、学校や地域全体で取り組む様々な活動やカリキュラム・教材が政府主導のもと整え始められている。この背景には、学業成績の充実が児童の健康から育まれるという政府の認識がある。

SEALプログラムの詳細

児童・学校・家庭担当大臣のEd Ballsは、2011年までに全ての小・中学校の児童に社会的スキルと感情スキルを養うためのプログラムを導入したいとする考えを示した。これはSEAL (Social and Emotional Aspects of Learning) プログラムと呼ばれ、自己の認識、感情のコントロール、他者への理解など社会的スキルと感情スキルを養うことを目的としている。既に約60%の小学校で導入されている。

小学校でのカリキュラムは、「失敗と成功」、「いじめの拒否」や「人間関係」といった7つのテーマから構成され、それぞれのテーマを学校での活動を通して取り組む。学習用の教材は、基礎ステージ、1-2年次用、3-4年次用、5-6年次用の4つに色分けされており、児童が基礎ステージから始めて、毎年適切なレベルで各テーマとそれに紐付くスキルや概念を学習する。児童が保護者らの協力を仰いだり、スタッフを養成するための活動があるのは特徴的である。中学校でそのカリキュラムはより包括的となり、効果的な学習や前向きな姿勢、定期的な授業参加、児童・教員双方の情緒的健康を下支えしている。正規の授業に加え、個人指導の時間、カリキュラムに基づく学習などを活用することでスキルを延ばし、学習したことを定着させる。更にガイドブックの他、様々な教材がウェブサイトやCD-ROMで提供されている。

児童の反社会的行動

イギリスでこのような小・中学生児童に対する社会的教育が重要視されるようになった背景には、児童の学校での反社会的な行動がある。教師支援ネットワーク(The Teacher Support Network)による調査によると、およそ90%以上の教師が生徒から言葉による暴力を受けており、また半数が身体的に暴力を受けている。今年4月に施行された法律により、教師は暴力的な児童に対処する法的権利を持つようになったが、この法律がどれほどの効果を持つかについては、教師の側からも疑問視されている。

SEALプログラムの効果

イギリス教育雇用省(DfES)が実施した試験的SEALプログラムの結果によると、感情的知性(Emotional Intelligence)の授業を行った小学校では、いじめやけんかなどの問題の減少が見られ、児童が自分の感情をきちんと伝え、授業に集中できるようになったという。SEALプログラムには既に700万ポンド超の予算が投じられたが、次の4年間に更に1370万ポンド投資されることとなっている。

食育の推進

健康的な食生活を通じて子供達の健康と学業成績の充実を図ろうという取り組みも始まっている。DfESとイギリス保健省(DH)が共同で推進している「健康な学校プログラム」(The National Healthy Schools Programme)は、SEALプログラム同様学校全体で取り組む包括的運動で、身体的健康のみならず、情緒・社会・地域保健の促進を目指している。この背景には、学業上の達成度や水準を引き上げるためには、児童の健康に対する投資が必要であるという政府の認識がある。また、子供達が実際に農場や農村で体験学習をすることによって都市部と農村部の相互依存関係や私達の暮らしを支えている自然界について理解を深める「育てる学校」(Growing School)プログラムも積極的に行われている。

